

TPDS NEWS



※ TPDS = Tokyo Plastic Dental Society = (一社) 東京形成歯科研究会

Vol.82

配信日：2025年1月25日

配信元：(一社) 東京形成歯科研究会 事務局

須坂新聞 記事紹介

“ 博多でオオバン振る舞い？ ”

相談役・理事 北村 豊 先生

当会の相談役・理事 北村豊先生からご提供いただいた記事をご紹介します。

記事の内容につきましては、別紙^{*}(Emailの場合:別添)(Faxの場合:本状含め2枚目)の通りでございます。

※ 別紙 出展元: 須坂新聞 2025年(令和7年)1月18日 発行

事務局より

会員の先生方から情報提供いただければ、その都度、施設長に相談して、「TPDS NEWS」にて配信させていただきます(施設長より)。従来は、歯科・医科に関する内容を配信しておりましたが、北村先生のご指導もあり、「TPDS NEWS」を会員・関係各位の交流の場(ツール)として活用していただくことを目的に、配信する内容(企画)の幅を拡大することと致しました。お気軽に「TPDS NEWS」の材料(ネタ)を事務局まで(下記)ご提供いただけると幸いです。ご検討の程、何卒宜しく願い申し上げます。※反社会的内容等の場合は、配信を断念する場合もございます。予めご了承願います。

〒114-0002 東京都北区王子 2-26-2 ウェルネスオクデラビルズ 3F

一般社団法人東京形成歯科研究会 事務局

Email: okudera@carrot.ocn.ne.jp

TEL:03-3919-5111/FAX:03-3919-5114

博多でオオバン振る舞い？

昨年11月末に、私にとって大切な学会が博多の福岡国際会議場で開かれ、アクセスの便利な松本空港から出発して参加しました。

学会中は、講演の聴講や役員を務めたことで全く余裕がなかったのですが、最終日は終了時間が遅くなり、翌日のフライトにしました。私の心に余裕ができたのか、『海なし県



の私はホテルのすぐ裏にある博多港の海が見たくなり、手ぶらで散歩に出かけました。その港の岸壁からほど近くに、今まで見たことのない黒白2色の色調が目立つ2羽の鳥が泳いでいました。くちばしから前額部にかけて際立った白さが目立つ鳥で、川から港内に流れ込んだと思われる植物を盛んについでいました。まさに思わずプレゼント。この鳥はツル目クイナ科のオオバンです。白いくちばしに続く前額部の毛の生えていな



福岡博多港の海で泳いでいた2羽のオオバン。くちばしから前額部にかけて際立った白さが印象的だった＝北村さん撮影

い白色の部分は額板（ガクバン）と言われ、くちばしのように硬いようですが、何のためにあるのかはよく分かっていません。

私は好奇心に導かれて英語の学術誌で調べました。そこには「額板が大きいほど強い個体」などの諸説があるとの解説がありました。学術誌の英名を直訳すると「ホルモンと行動」で、この中の研究論文に、オオバンの

近縁種でバンという鳥を紹介しています。バンはくちばしの根元と額板が赤い特徴があり、日本にもすんでいます。バンやオオバンの額板（英語の直訳では前頭盾）は、鳥の繁殖状況によって年間を通じて大きさや、厚みが増えることが知られています。

論文によると、この鳥の雄雌に男性ホルモンのテストステロン濃度を実験的に増加させる装置を体内に埋め込むと、額板はサイズ、厚みが増し、色はとて

も濃くなるそうです。逆にホルモン投与を中止すると雄雌ともにそれらの変化は急速に減少したと書かれています。

さて、このホルモンで使用される濃度はご存知でしょうか？通常私たちが服用する薬剤のほとんどはμgの千分の1のμgで表現されますが、ホルモンの重さの単位は10億分の1μgの「ng（ナノグラム）」や1兆分の1μgの「pg（ピコグラム）」という、とてつもなく小さな単位。

すなわち、極めて少量の性ホルモンというステロイドホルモンによって、人間を含めた脊椎動物は形質や行動、心を支配されるとも言えます。

このオオバンやバンの額板もそれらのホルモンによって支配されている形質であるといえます。この特徴的な額板を持つオオバンは、1967年の日本における分布図を見る

氷結しなくなったことも関連していると考えられています。ツル目クイナ科に属するオオバンですが、科名にもなっているクイナと言えば、沖縄のヤンバルの森で1981年に新種として発見された「ヤンバルクイナ」を皆さんは思い出すでしょう。「遠い親戚」だけあって体型が何となくふつくらんとしていて似ています。

一方、オオバンは水鳥として太古より生活してきたため、水かきほど効率的ではありませんが、特殊な形の「弁足」を持つに至っています。本来持っている機能も、使われないと退化していく傾向にありますね。さて、読者の皆さんは最近、体のどこか使っていないところがあるでしょうか？それは前頭葉でしょうか？

と、関東では留鳥（りゅうちょう）、東北と北海道では夏鳥、九州と四国では冬鳥とされていますが、2000年代になると西日本で越冬するだけでなく越冬地は東北地方へと北上しているそうです。

手塚治虫さんの名前の由来となったオサムシは本来飛ぶ役目を担っていた後翅（こうし）が、歩くことに徹したため線状に退化して飛行能力を全く失いました。

私は最近、「首が回りにくくなった」ので首の運動不足か？とふと思いましたが、いや「借金」が原因だったのかもしれないね？

近年は北海道でも少数の越冬個体が見られるそうで、越冬地の北上は温暖化の進行に伴って、諏訪湖のように

ヤンバルクイナも歩くことに徹したために翼は小さいながらも飛べない鳥」となっています。

信州口腔外科インプラントセンター所長（小布施町林）